SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

日本人学習者のための，頻度に基づくドイツ語基本単語5000：概要，検証，展望

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-09-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大薗, 正彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009112

日本人学習者のための，頻度に基づくドイツ語基本単語5000
—概要，検証，展望—

大　薗　正　彦

1．はじめに

近年，各種コーパスに基づく語彙リストが容易に参照できるようになった。本稿は，このような状況の中で，基本語彙の選定についてあらためて検討し，実際に選定を試み，検証を加えようとするものである。そして最終的には，日本におけるドイツ語学習またはドイツ語教育・研究において参照できるような，頻度に基づくドイツ語基本語彙リスト（5000語）の作成を目指す[1]。

大規模なデータを参照して作成され，かつごく一般レベルの日本人学習者が気軽に参照できるようなドイツ語基本語彙リストは今のところ見当たらない。もちろん市販の単語集は市場に数多く出回っているが，そのほとんどは教育的観点から選定されたものである。頻度順を謳っている場合であっても，実際には教材などを調査対象としており，「頻出順」とでも言うべき状況である。語数についても1000～2000語程度を扱っているものがほとんどで，本格的なドイツ語学習を志す場合には不十分であると言えよう。一方で，コーパスに基づく語彙リストも，そのままの形で語彙学習に利用しようとするにはあまりに不完全である。唯一の例外としてJones/Tschirner (2006) による頻度辞典があるが，他の頻度語彙リストと比較してみると，実際のところかなりの程度ずれが認められる（大薗 2014a)。また当然のことながら日本人学習者にとっての語彙という観点は考慮されていない。この点においてもあらためて基本語彙を検討する余地がある。

もちろんコーパスを絶対視することにも問題がある。とりわけ問題となるのが，コーパスの代表性・均衡性である。この点に関して，ドイツ語を真の意味

[1] 本研究は科学研究費助成事業（基盤研究 (C) 25370478）の助成を受けている。また本稿の一部は，富山大学人文学部シンポジウム「ドイツ語教育のためのドイツ語研究」(2015年２月21日，富山大学）において行った口頭発表「基礎語彙とドイツ語教材」に基づいている。

で「代表」するコーパスの構築は事実上不可能であると言わざるを得ない（在間 2012: 5)。つまり，コーパスの規模がどれだけ大きくなろうとも，代表性・均衡性の問題は常について回る。しかしだからと言って，客観的手法を放棄することも一方でナンセンスであろう。筆者としては，研究者や教員が，その目的や関心に応じて，独自の語彙リストを作成するためのノウハウを蓄積していくことが重要であると考えている。

2．経緯

本稿は，大薗 (2014a, 2014b) の続きを成すものである。本節ではまずこれまでの作業の経緯を簡単にまとめておく。

本プロジェクトで基本語彙として選定したいのは，現代ドイツ語の語彙の中で「高い頻度」を示し，「広いジャンル（使用域)」に出現する語である。右の千野 (1986) の図で言うと，Aの部分が中核となる。そしてAの次はBが優先される。つまり，特定の分野でのみ高頻度の語は対象とならない。選定語数は5000語とするが，これは，とりわけ英語を中心とした研究で語彙学習の一つの目安とされているもの（例えばNation 2001）を出発点として仮に採用したものである。後の議論でも触れるが，テクストカバー率はおよそ80～90％程度になる。この5000語を次の表１に示すように５段階（下位区分を含めると６段階）にレベル分けする。

図１　語彙のあり方（千野1986: 59）

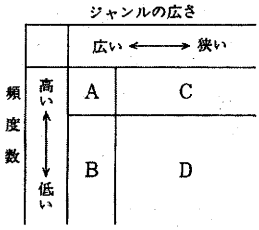

表１　レベル設定

レベル	語数	語彙レベル	頻度順位
レベル１A	500語	500語レベル	1～ 500位
レベル１B	500語	1000語レベル	501～1000位
レベル２	1000語	2000語レベル	1001～2000位
レベル３	1000語	3000語レベル	2001～3000位
レベル４	1000語	4000語レベル	3001～4000位
レベル５	1000語	5000語レベル	4001～5000位

続いて本プロジェクトで基本語彙選定の参考とした語彙リストは次の通りである（以下，各リストは略号で示す)。なお，このような作業では，見出し語

（レマ）化の基準をそろえることが重要となるが（例えば変化形・派生形を見出し語と見なすかどうかなど），この点については大薗 (2014a: 53f.) において詳しく設定した。下に「独自にレマ化」とあるのは，この基準に従って見出し語をまとめ直したということである。

（1） 頻度語彙リスト

- DRW = DeReWo 上位１万語を参照（場合によっては３万語まで参照）。
- DWC = deWac 上位１万語を参照（場合によっては３万語まで参照）。
- J&T = Jones/Tschirner (2006), Tschirner (2008) の計約5000語を参照。
- DtW = Deutscher Wortschatzの１万語の語形リストを独自にレマ化して参照。

→ 上記４リストを基に5000語の頻度リストを作成。これを「**リストD**」と呼ぶ。

（2） 教育語彙リスト

- SD1/SD2 = Start Deutsch A1, A2. 独自にレマ化し直し，SD1が797語，SD2が577語。
- ZD = Zertifikat Deutsch. 独自にレマ化し直し，1403語。SD/ZDで計2777語。
- BG = Langenscheidt Basic German Vocabulary. 独自にレマ化し直し，3638語。レベルは1-2000語レベルと，2001-4000語レベルの２段階。それぞれをBG2, BG4と略記する。

→ 上記３リストの見出し語をすべてまとめると4238語になる。この4238語のリストを「**リストDaF**」と呼ぶ。

（3） 独自調査語彙リスト[2]

- 100F =『ドイツ人が日本人によく聞く100の質問（改訂版）』（三修社）の語彙リスト。見出し語数3365語。
- K110 =『ドイツ語会話110番』（旺文社）の語彙リスト。見出し語数704語。

→ 上記２リストの見出し語をすべてまとめると3654語になる。これを「**リストJ**」と呼ぶ[3]。

---

[2] 見出し語数について，ミスを訂正したり，綴りのバリエーションの認められる語（例えばauf Grundとaufgrundなど）について統一を図ったりしたため，大薗 (2014a, 2014b) の数字と若干異なっている。

[3] なお「リストJ」全体の中で語の頻度順位を問題にする場合は，上記２リストの総語数が異なるため，粗頻度ではなく，相対頻度を基に算出した順位を用いる。

さて，実際の選定作業であるが，大きく分けてこれまでに以下の３つの作業が終わっている。

２．１　頻度語彙リストの検討

４つの頻度語彙リストをもとに，頻度に基づいた5000語のリストをまとめた（詳細は大薗 2014a を参照）。これを以下「リストＤ」と呼ぶ。その一部を示すと次の通りである（大薗 2014a: 61から再録）。

表２　リストＤ：頻度に基づく選定結果（一部）

レベル１Ａ	レベル１Ｂ	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５
ab	Abend	abgeben	Abbau	abbrechen	Aachen
aber	ablehnen	Abgeordnete	abbauen	Abenteuer	Abb.
ähnlich	abschließen	abhängig	Abbildung	Abfall	abbilden
alle	absolut	Ablauf	abends	Abgabe	abdecken
allein	acht	Abschluss	abhalten	abholen	Abfahrt
allerdings	AG	Abschnitt	abhängen	Abitur	abheben
allgemein	Aktion	absehen	Abhängigkeit	Abkommen	ableiten
als	aktiv	Abstand	ablaufen	ablösen	Abrechnung
also	aktuell	Abteilung	ablegen	abschaffen	abreißen
ab	Alter	ach	Ablehnung	Abschaffung	absagen
...	...	...	...	...	...
zweit	Zweck	zweimal	zustande	zweitens	Zweig
zwischen	zwölf	zwingen	zustimmen	zwingend	Zyklus

２．２　頻度語彙リストと教育語彙リストの比較

次にこの「リストＤ」(5000語）を「リストDaF」(4238語）と比較した。全体として重複するのは2949語である。さらにランクごと，各個別リストごとに細かく見ていくと，その差異はさらに複雑になる（詳細は大薗 2014b を参照）。極端な場合，次のような分布を見せる語も見つかる（○はリストに含まれることを，×はリストに含まれないことを示す。その際，DRWとDWCについては10000位以内に含まれるものを○としている）。

表3　「頻度語彙リスト」と「教育語彙リスト」の比較

(頻度語彙)				(教育語彙)		語数	
DRW	DWC	J&T	DtW	SD/ZD	BG		
○	○	○	○	×	×	1272	→ 例1
×	×	×	×	○	○	126	→ 例2

例1：Angabe, Bereich, Berlin, darstellen, ... wirken
例2：anmachen, Birne, duschen, einundzwanzig, ... Wochentag

2.3　独自調査

日本人学習者にとって重要な語を抽出するために，独自の語彙調査を行った。例えばドイツ語圏のコーパスではJapanのような語はそれ程上位に来ないが，日本人学習者がドイツ語を学ぶ際には優先順位が高いであろう。そのような語を抽出するというのが狙いである。調査対象としたのは上の（3）に挙げた2冊の本で，一つは日本社会・文化を紹介したもの，もう一つは日本人向けの会話集である。調査の結果，当初の狙い通り，日本社会・文化に関わる語彙が浮かび上がると同時に，ドイツ語学習者が初歩的な会話で必要とする基本的な語も抽出された。次にいくつか例を挙げておく。頻度語彙リストに比して独自調査語彙リストで大幅に順位の高い語である（大薗 2014b: 58 より再録。なお，「リストDレベル」というのは上の表1に示したものと同じで，2は2000語レベル，5は5000語レベル）。

表4　「頻度語彙リスト」と「独自調査リスト」の比較

見出し語	リストDレベル	リストJ順位
Japan	2	27
bitte	2	28
japanisch	2	48
Dank	2	60
ach	2	62
Entschuldigung	5	105

以上を踏まえ，各リストの結果を合成していくというのが今回の作業である。なお，現状では各リストにおける見出し語化の基準や精度の問題が大きいため，単純な統計学的手法を取るのは困難である。

3．最終選定作業

3．1　基本方針

7つの個別リスト（DRW, DWC, J&T, DtW, SD/ZD, BG, J）を参照しながら，最終的な5000語を確定する。以下に示す選定方法は，実際には試行錯誤を繰り返しながら決定したものである。その点において，選定には選定者の主観が入らざるを得ない。まず選定方法の原則は次の通りである。

- 原則として4リスト以上に記載されている語を選定対象とする。ただし，頻度リストに記載がなくても，SD/ZD，BG，Jについては3つがそろえばよいものとする。
- 「リストJ」(3654語）については，基本的には，粗頻度1の語をのぞいた1501語を優先的に選定の対象とする。その際，1～150位をレベル1A，151～300位をレベル1B，301～600位をレベル2，601～900位をレベル3，901～1200位をレベル4，1201位以降をレベル5相当と考える。

レベル1Aから順を追って選定していくが，厳しい条件から始め，徐々に条件を緩くしながら確定していく。最も厳しい条件は，各リストの最上位ランクの組み合わせである。つまり，「リストDのレベル1A」＋「SD/ZDのSD1」＋「BGのBG2」＋「リストJのレベル1A」となる。この組み合わせには108語が該当する（aber, all*e*, als, also, ... zu)。次に「リストDのランクは任意」＋「SD/ZDのSD1」＋「BGのBG2」＋「リストJのレベル1A」のように少しずつ条件を緩めながら語を選定していく。二つのランクの境界線上にある語群については，原則として頻度の平均値を出して線引きする。なお，最後のレベル5まで来ると上の原則を満たせない場合も出てくるが，その場合DRW, DWCの順位を30000位まで拡張して採否を判断するということも行った。

3．2　体系の考慮

各レベルごとに意味体系の考慮も行うこととし，まとまりを成す語（例えば月や曜日など）の順位調整を行った。月の名前を例にとると，最初の選定段階でFebruarをのぞくすべての語がレベル1Aに入り，Februarのみレベル1Bに入ることとなった。そのような場合，Februarもレベル1Aに含めるものとする。月の名前以外には，次のような語群についてレベルの確認を行った。ただし実

際に調整を行ったケースはそれ程多くない。というのも，教育語彙リストではもともとある程度の意味のまとまりでランク付けがしてあるため，本リストの選定段階でも概ね同じランクに入ることが多かったためである。なお，反義関係にある形容詞などは，レベルが異なっていても特に問題がなければ調整していない場合が多い（例えばanwesendとabwesend。この場合，前者の方がランクが上)。

（4） 確認した語の例：月，曜日，季節，1日の時間など（例：Morgen, morgens)，数字，親族名称，方角，方向，単位，反義語（weiblich, männlichなど)，派生関係にある語（Europa, europäisch, Europäerなど)，その他まとまりを成す語（einerseits - andererseitsなど）

3.3 選定結果

以上の作業を通して，最終的に5000語を選定した（以下，「最終リスト」と呼ぶ)。次がその作業結果の一部である[4]。参考までに，リストDからのレベルの変動を矢印（↑↓）で示す。

表5 最終的な作業結果（一部）

レベル1A	レベル1B	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
ab	abschließen	Abendessen ↑	abheben ↑	Abbau ↓	Abb.
Abend ↑	achtzehn ↑	abends ↑	Ablauf ↓	abbauen ↓	abbrechen ↓
aber	achtzig	abfahren ↑	Ablehnung	abbiegen ↑	abdecken
abholen ↑	allgemein ↓	Abfahrt ↑	Absatz	Abenteuer	Abgabe ↓
acht ↑	Alter	abgeben	Abschnitt ↓	Abfall	Abgas ↑
Adresse ↑	Amerika ↑	Abgeordnete	absehen ↓	abfliegen ↑	abhalten
all*e*	amerikanisch ↓	abhängen ↑	Absicht	Abflug ↑	ablaufen ↓
allein	anfangen ↑	abhängig	absolut ↓	Abitur	ablösen ↓
allerdings	Angst ↓	ablehnen ↓	Akte ↑	Abkommen	abmachen ↑
als	ansehen	abnehmen ↑	Aktie ↓	ablegen ↓	abonnieren ↑
...	...	...	...	...	...
zweit	zwanzig ↑	Zweifel	zweitens ↑	zustande ↓	zwingend ↓
zwischen	zwölf	zwingen	Zwiebel ↑	Zweig ↑	zwölft ↑

[4] リスト全体はネット上で公開している。静岡大学ドイツ言語文化研究室ホームページ（http://www.hss.shizuoka.ac.jp/lang/deutsch/）から入り，「ドイツ語」＞「語彙」＞「基本単語5000」を参照。

各個別リストの重複状況は次の通りである（DRW, DWCは10000位までが考慮されている)。４リスト以上に記載されている語数（太字部分）の合計は4295語となり，概ね原則を通すことができた。

表６　「リストD」・「リストDaF」比較

頻度				教育		独自	語数
DRW	DWC	J&T	DtW	SD/ZD	BG	J	
7リストに記載							**1059**
6リストに記載							**1003**
5リストに記載							**1117**
4リストに記載							**1116**
3リストに記載							399
2リストに記載							238
1リストに記載							68
						計	5000

リスト別語数

DRW	4587語
DWC	4559語
J&T	4111語
DtW	3956語
SD/ZD	2628語
BG	3335語
J	2036語

ただし，最終的に１リストのみの語も68語含まれる。実際はすべてSD/ZDからの語で，レベル５に属する。SD/ZDは2000語レベルの学習語彙が想定されているが，他のリストの語とも比較しながら，最終的にレベル５において優先的に採用するという判断をした（ただしDRW, DWCで30000位以内の語のみ)。この辺りは検討の余地があるかも知れない。参考までにこの68語は次のものである。

（５）　Abgas, abonnieren, abwaschen, Alphabet, Altenheim, ankreuzen, Ansage, Apartment, Arztpraxis, Biergarten, Bonbon, Bürgersteig, Cousin, Diskette, Doppelzimmer, Einbahnstraße, Einzelzimmer, Ermäßigung, Essig, Fasching, Fernsehgerät, Frauenarzt, Gastfreundschaft, Gebäck, Geburtsort, Geldbörse, Hähnchen, Handarbeit, Hausmann, Heimweh, hierhin, hineingehen, hinkommen, Hocker, jahrhundertelang, Jugendherberge, Kantine, Kinderwagen, Klo, Kondom, Konsulat, Kosmetik, Krankenpfleger, Laufwerk, minutenlang, mittwochs, Mülleimer, Nabel, nachschlagen, Nachtisch, Nichtraucher, Notruf, Pfingsten, Pflaume, Quark, Rabatt, Reiseführer, Schnupfen, Sprichwort, Standesamt, Tastatur, tolerant, überfahren, Unterhose, vegetarisch, vierfach, Vorwahl, wegwerfen

4．カバー率の検証

本節では完成した最終リストのテクストカバー率について調査し，その有用性を確認してみたい。まずは個別調査に用いた2冊の本を対象とする（これらはすでに語彙リストが完成しているためカバー率を容易に出すことができる）。比較対象として，上述の「リストD」(5000語）と「リストDaF」(4238語）によるテクストカバー率（全体の述べ語数に対するカバー率）を示すと次の通りとなる[5]。

表7　「リストD」によるカバー率

テクスト	総語数	カバー語数	カバー率
100F	17065	13991	82.0%
K110	4141	3858	93.2%
合計	21206	17849	**84.2%**

表8　「リストDaF」によるカバー率

テクスト	総語数	カバー語数	カバー率
100F	17065	13574	79.5%
K110	4141	3896	94.1%
合計	21206	17470	**82.4%**

最終リスト（5000語）でのカバー率は，次に見るように，先の2リストよりも高い。もっとも，最終リストはこれら2冊の本の語彙も参考にして調整しているので，カバー率が上がるのはある意味当然のことである。

表9　最終語彙リストによるカバー率

テクスト	総語数	カバー語数	カバー率
100F	17065	14363	84.2%
K110	4141	3972	95.9%
合計	21206	18335	**86.5%**

続いてドイツ語の初級教材との相性はどうであろうか。試みに拙著『異文化理解のための初級ドイツ語文法』(朝日出版社）における単語のカバー率（述べ語数ではなく，見出し語のカバー率）を見てみた。これは初学者向けのドイツ語教科書で，総語数は見出し語にして541語である（ただし人名，犬の名前，猫

[5] 二つの語彙リストの差分調査には岐阜経済大学の山田喜久氏が作成したTecely (http://www.gifu-keizai.ac.jp/~yamada/) を利用した。なお，この二つのカバー率は大薗 (2014b) でも示したが，テクストの語彙リストに関して，先述の通り見出し語の調整を行ったり，ミスを訂正したりした結果，ここでは異なる数字となっている。ただし全体の傾向は変わらない。

の名前はのぞく)。それぞれのリストのカバー率は次の通りとなる[6]。

表10　教科書の単語のカバー率

	リストD	リストDaF	最終リスト
カバー見出し語数	479	499	512
カバー率	88.5%	92.2%	94.6%

ここでも最終リストのカバー率が最も高いことが分かる。差し当たりある程度の有用性が確認できたかと思う。ついでながら，ここでは図らずも「リストD」(頻度語彙リスト）よりも「リストDaF」(教育語彙リスト）の方が――後者の方が見出し語数が少ないにもかかわらず――高いカバー率を示している。初学者向けの学習語彙についての示唆を含んでいるように思われて興味深い。この点については次節であらためて取り上げたい。以下には，参考までに，最終リスト（5000語）でカバーできなかった語にどのようなものがあったのか挙げておく。

（6）　aufgehen, Aufsatz, Borussia, Dortmund, duften, erkältet, FC, Fischer, forschen, Fußball-WM, Fußballtrainer, g, Gans, Hallenbad, hundertprozentig, Kakerlak, Kimono, Kirschbaum, lecker, Luftballon, Profifußballer, Reisend*e*, Schal, Schalke, Vase, Vegetarier, VfL, Wolfsburg, zweihundert

5．補足（1）：学習語彙と高頻度語彙のずれ――基本単語500をどう選ぶか

筆者は，かつて教育的観点から初学者のためのドイツ語基本単語500を選出したことがある[7]。これは，市販の単語集や辞書のランク付けを比較検討し選定したものである。十分予想される通り，その500語と今回選定した基本単語5000のレベル１A（500語）は必ずしも一致してない。その理由として，基本単語500は純粋に学習上の観点から選ばれたのに対し，基本単語5000では頻度という観点が加味されていることが挙げられる。両者の特徴を簡潔にまとめると次のよ

[6] 見出し語化については本プロジェクトの基準に則して考える。つまり，Studentinなど名詞の女性形は男性形に含めて，また*das* Öffnenのような動詞の名詞化は動詞öffnenに含めて考える。

[7] ネット上で公開している。上述の静岡大学ドイツ言語文化研究室ホームページから入り，「ドイツ語」＞「語彙」＞「ドイツ語基本単語500」を参照。

うになる。

- 基本単語500：純粋に学習上の観点から選定。学習の順序も考慮。
- 基本単語5000：頻度をもとに，日本人学習者にとっての重要度という観点を交えて選定。

初級者にとっての頻度という点について，ここで少し考えておきたい。学習者が最初に覚えるべき単語として，頻度の高い語を優先するというのは自然な考え方である。しかしながら，外国語としてドイツ語を学ぶ場合，とりわけ初級段階においては頻度を絶対視することにも問題がある。まず，高頻度の語の多くを，代名詞，冠詞，前置詞，接続詞などのいわゆる機能語が占めるということが挙げられる[8]。仮にドイツ語の単語を頻度順に100語覚えることにすると，大多数が機能語になり，これでは中身のあることは何も伝えられないということになってしまう。

そこで初級者向けの基本単語を考える場合，実際にはバランスを見ながら名詞，動詞，形容詞などのいわゆる内容語を織り交ぜていくことになる。しかし，名詞や動詞に限ったとしても，頻度だけに準拠すると困った問題が出てくる。その一つは，日常的に身近なもの——例えばApfelやTischなど——は意外に頻度が低いということである。日本語で実際に「リンゴ」という語を目にする／耳にする頻度を想像してみるとよいであろう[9]。ドイツ語を学習し始めてすぐは，多くの人が，抽象的な単語よりも具体的な単語から覚え始めたいと思うのではないだろうか。しかしながら，頻度ということで言えば，PolitikやWirtschaftといった語の方がむしろ上位に来ることになる。

また，頻度順では，まとめて覚えたい語がまとめて出てこないということが起こり得る。曜日や月の名前，親族名称などがその代表例であるが，それぞれの語の頻度には当然ばらつきがある。曜日で言えばSonntagやMontagの頻度が

---

[8] J&Tで上位10位までを占めるのは，der/die/das, und, sein, in, ein, zu, haben, ich werden, sieの10の見出し語である。参考までに，日本語で上位10位までを占めるのは，Tono et al. (2013) によると「ノ，ニ，ハ，タ，ヲ，ダ，ガ，テ，ト，マス」の10語である。ドイツ語と同様のことが言えよう。

[9] ちなみにTono et al. (2013) では「リンゴ」の頻度順位は2121位，「テーブル」は1773位，「机」は2021位である。J&Tにおいて，Apfelの順位は3837位，Tischの順位は494位となっている。なお，Tischについては他のコーパスではやや順位が落ち，DRWで975位，DWCで1409位，DtWで915位という状況である。

高いが，だからと言ってDonnerstagのない単語リストは役立ちそうにない[10]。学習者のための基本単語を考える場合，意味の体系を考慮する必要もあるということである。

教える立場からもいくつかのポイントが指摘できる。まず学習の順序という点である。高頻度の語であっても，文法の初期段階ではふつう教えない語というのがある。例えば，*der/die* Deutsche*e*などが該当する。重要な語であるのは明らかであるが，形容詞からの派生名詞で複雑な変化をするため，授業で取り上げるのは通常比較的あとになってからであろう。

用例としての向き・不向きという問題もある。先述したApfelやTischなどの具体的な名詞は，複数形を教えるときや，前置詞を教えるときに好都合である（zwei *Äpfel,* auf dem *Tisch*など[11]）。動詞の例で言えば分離動詞という項目があるが，頻度に関してはanbietenやdarstellenなどが上位である。しかし実際に教科書で使われているのは，abfahrenやaufstehenなどであろう[12]。これには，具体的な場面や文脈が設定しやすいかどうか，いっしょに使われる語句がレベル的に適切かどうか，また，文法を教える場合であれば，変化表が示しやすいかどうかなど，複合的な要因が絡んでいると思われる。

一口に頻度と言っても，いろいろと問題があることが分かる。以上のような問題はとりわけ初級段階で顕著になる。結局のところ，それは単語の「やりくり」の問題（大薗 2009: 47）であると言ってよいであろう。初級者の場合，さまざまな現実を前に限られた語彙を最大限にやりくりする必要がある。そういった意味で，初級者は，複雑な文を組み立てるための機能語よりは，具体的な意味を担う内容語を，さらに言えば，微妙なニュアンスの違いを持つ複数の語を学ぶよりは，言い換えの利かない最小限の語を優先的に学んだ方がよいと考えることができる。BrotやButterはそのような言い換えの利かない語である。一方，innerhalbであればinでも代用できそうだといった具合である。

以上の点を踏まえると，初学者にとっての学習語彙を考える場合——とりわけ500語から1000語レベルくらいでは——純粋に学習的観点から基本語彙リスト

---

[10] J&Tでは，Sonntagが$818位，Montagが$794位であるのに対し，Donnerstagは1332位。

[11] 在間 (2012: 7) には次のような興味深い指摘がある。Vater, Apfelという語は両者とも無語尾・ウムラウト型の複数形を作るが，単数形の頻度はVater > Apfelなのに対して，複数形の頻度は逆転してVäter < Äpfelとなるとのことである。語形の頻度にも着目する必要があるということである。

[12] J&Tでは，anbietenが$434位，darstellenが$343位であるのに対し，abfahrenがランク外，aufstehenが$1174位。

を作成することは有用であると考えられる。最後に，上述の両リスト，「基本単語500」と「基本単語5000のレベル１A（500語）」で具体的にどのような語が食い違っているのかを示しておく（太字は本節で例として言及した語である）。

● 「基本単語500」にあって「基本単語5000のレベル１A（500語）」にない語（比較的頻度は低いが，学習上は優先してもよいと考えられる語。教科書などでは頻出。「基本単語5000」でのレベルもあわせて示す）

レベル１B　anfangen, antworten, arm, Bad, Baum, Berg, bestellen, Bett, bevor, bezahlen, billig, blau, Blume, Brief, Bruder, Bus, dauern, dick, dunkel, elf, endlich, entscheiden, erinnern, fallen, falsch, Fenster, Fernsehen, fertig, fliegen, Flugzeug, Foto, freundlich, früh, Frühstück, fühlen, Fuß, gesund, glücklich, heiß, hoffen, holen, Hund, hundert, kalt, Kino, krank, Kuchen, lachen, Laden, lieben, manchmal, Mittag, Musik, Nachmittag, Natur, niemand, Obst, Prüfung, recht, regnen, reich, reisen, schade, schenken, schicken, schwach, Schwester, schwierig, See, selbst, singen, Sonne, statt, sterben, studieren, Telefon, tief, **Tisch**, trotz, Tür, Universität, voll, Vormittag, Wagen, Wald, warm, woher, wohin, wünschen, ziehen

レベル２　ähnlich, **Apfel**, aufhören, **aufstehen**, backen, braten, **Brot**, Cent, Dusche, Ei, Fahrrad, Flasche, Fluss, gelb, Gemüse, Glas, Handy, hell, Hemd, Hose, Hunger, Katze, Kleid, leihen, Messer, Milch, Radio, rauchen, Rock, rufen, Salz, schlagen, Schnee, Schuh, schwimmen, Stuhl, Suppe, Tasche, Tasse, tausend, wachsen, waschen, weinen, werfen, Zucker

レベル３　Anzug, Brille, Durst, Heft, Kugelschreiber, Onkel, Tante

レベル４　Bleistift, Fräulein, schneien　（計145語）

● 「基本単語5000のレベル１A（500語）」にあって「基本単語500」にない語（比較的頻度は高いが，学習上は後回しにしてもよいと考えられる語。ただし実際のドイツ語使用場面では頻出）

ab, abholen, Adresse, allerdings, also, **anbieten**, anders, Angebot, Antwort, anziehen, Arbeit, Art, Aufgabe, Auge, Ausländer, ausländisch, außer, außerdem, Bank, bedeuten, bestehen, bisher, bisschen, Blick, Café, Computer, dabei,

dafür, dagegen, daher, damit, danach, Dank, danke, daran, darauf, dazu, deshalb, deutlich, **Deutsche**, Ding, dritt, eigentlich, empfehlen, Entschuldigung, erhalten, erklären, Essen, etwa, Europa, europäisch, fast, Firma, frei, früher, führen, gar, Gast, geboren, gelten, gemeinsam, genau, gerne, Geschenk, Geschichte, Gesellschaft, Gespräch, gewinnen, Größe, Grund, heiraten, Hilfe, Information, Interesse, interessieren, international, Internet, Japan, Japaner, japanisch, je, kaum, Klasse, Konzert, Krieg, Kunde, lange, Leben, lieb, lieber, Lösung, mal, Mal, mehrere, meist, Meter, Mitte, Moment, nämlich, natürlich, nennen, nett, normal, nötig, oben, Ort, plötzlich, politisch, Polizei, Preis, Programm, Prozent, Raum, Regierung, Reis, Reise, Rolle, ruhig, rund, Sache, schaffen, scheinen, Seite, sicher, sogar, später, Sprache, Stelle, Straßenbahn, Taxi, Teil, Text, Thema, unten, Unterschied, verschieden, versuchen, Viertel, wahr, weiter, Werk, **Wirtschaft**, Wochenende, wohl, z.B., Zahl, Ziel, ziemlich, zurück, zwar, zweit（151語[13]）

6．補足（2）：ドイツ人の名前

基本単語5000の選定に際し，人名（姓・名）は本リストには含めず，別途リストをまとめるものとした（大薗 2014: 54)。実際にまとめた人名リストについてここで報告しておく。ドイツ人の姓，女子名，男子名をそれぞれ100ずつ取り上げた計300語のリストである。なお，調査は2011～2012年にかけて行った。

6．1　姓

Wikipedia（http://de.wikipedia.org/）の情報を参照した。

6．2　女子名・男子名

ドイツでは公の統計は存在しない。本リストは，次の４つのウェブサイトで得られたデータに基づき，成人と青少年の名前の両方を考慮しながら上位100位を選出した。

[13] 上の二つでそれぞれの総語数が異なるのは，各リストの見出し語の立て方の基準の違いによる。「基本単語500」では同音異義語は別見出しとして扱っているが，「基本単語5000」では同一見出しとして扱っている。例えば動詞のseinと冠詞類のseinなど。

- **Gesellschaft für deutsche Sprache**（http://www.gfds.de/），以下GfdSと表記。
  ドイツ語協会（GfdS）による統計。戸籍役場（Standesamt）の情報をもとにその年に最も人気のあった名前を算出し，1995年以降の情報が公表されている（男女各10位まで）。これ以外に1957/58～2000年の間にベスト10入りした名前がまとめてリスト化されている（順位記載はなし。女子名64，男子名55）。なお，表記の揺れが認められるもの（Eric, Erikなど）はまとめて一つの見出し語として扱われているため表記ごとの順位は不明。また，下のBeliebte Vornamenのデータとは異なり，ミドルネームも含めて算出されている。

- **Beliebte Vornamen**（http://www.beliebte-vornamen.de/），以下BVと表記。
  1890年から現在までの各年の情報を掲載（男女名，各25～35位程度まで）。各種資料を対象とした独自のサンプル調査に基づく。近年は主に産科病院（Geburtsklinik）による情報のほかに若干の戸籍役場による情報を加えて算出しており，2011年に関しては，新生児の約24％に相当する数の名前を調査したとのこと。各年の統計のほかに，2000-2009など10年ごとの統計（男女各200位程度まで）や1890-2002年の統計をまとめたDie häufigsten Vornamen der Erwachsenen（女子99位，男子100位まで）。さらに地域ごとの統計など，各種観点からの統計を見ることができる。ここでのリストも，表記の揺れが認められるものはまとめて一つの見出し語として扱われており，表記ごとの順位は不明。上のGfdSのデータとは異なりミドルネームは区分して扱われている。

- **Vorname.com**（http://www.vorname.com/），以下VNと表記。
  閲覧者の投票，閲覧回数，検索回数に基づき順位を確定。アクチュアルな人気順位が示される。ただし，あくまで人気に基づく順位であり，実際の数の多さとは無関係。

- **Wiktionary**（http://de.wiktionary.org/），以下WIKと表記。
  Liste der häufigsten männlichen Vornamen Deutschlands および Liste der häufigsten weiblichen Vornamen Deutschlandsとして電話帳調査に基づく頻度調査（2005年）の結果が掲載されている。男女名，各上位1000位までの

名前を見ることができる。

上記サイト上の情報を以下のように参照した。なお，語形・表記形のバリエーションが存在し，それらが同列に扱われている場合は，同順位で処理した。

- GfdSの1957/58-2000年リスト。女性：72表記形，男性：64表記形（順位記載なし）。
- BVの1890-2002年リスト。女性：125表記形，男性：134表記形。
- WIKリスト。女性・男性各上位100位＝100表記形。

さらに比較的近年人気の名前も考慮するため，次の情報も加味した。

- GfdSの1995～2011年のリストを集計したもの（1995-1996年は旧東西ドイツ地域別）。各年の１位～10位をそれぞれ10点～１点でポイント化し，単純に点数を合計したもので順位を付ける。女性30表記形，男性：31表記形。
- BVの2000年代リスト（2000-2009年）。女性・男性各上位100位までを取り上げると，女性：142表記形，男性：138表記形。

各リストの１位～100位をそれぞれ100点～１点でポイント化した。順位の確認できないGfdS1957/58-2000年リストについては，すべての名前を50点とする。最終的に，語形・表記形のバリエーションがあるものについて，次の点を考慮して採否を決定する。

- WIKのリストは表記形に基づく頻度リストであるため優先的に参照する。
- BVの各名前の解説における頻度への言及。
- VNの言語情報におけるDeutschの記載の有無や人気順位。
- Duden: *Die deutsche Rechtschreibung* (2009) における記載の有無。

出来上がったリストの一部を示すと次の通りである[14]。作業リストでは１～100位までの順位づけを行っているが，基本単語5000のリストと同じく，最終的に公開するリストに細かな順位は付していない。ただし，女子名・男子名につい

[14] こちらもネット上で公開している。静岡大学ドイツ言語文化研究室ホームページから入り，「ドイツ語」＞「語彙」＞「ドイツ人の名前」を参照。

ては，比較的近年に多い名前と，比較的以前に多かった名前について，それぞれ * および ** を付して示してある。

表11　最終的な作業結果（一部）

姓	女子名	男子名
Albrecht	Alina*	Alexander
Arnold	Amelie*	Alfred**
Bauer	Andrea	Andreas
Baumann	Angelika	Anton
Beck	Anja	Ben*
Becker	Anke	Benjamin
Berger	Anna	Bernd
Bergmann	Anne	Bernhard**
Böhm	Anneliese**	Christian
Brandt	Barbara	Daniel
...	...	...
Ziegler	Vanessa	Willi**
Zimmermann	Waltraud**	Wolfgang

*は比較的近年に多い名前，**は比較的以前に多かった名前

7．おわりに

以上，基本単語5000の選定についてその概要を述べてきた。最終的には，実際に5000語を確定し，簡単なものであったが，テクストカバー率の調査も行った。最終リストは，既存の頻度語彙リストや教育語彙リストよりも高いカバー率を示しており，ひとまず今回の選定の方向性が大きく誤ってはいなかったことが確認できたのではないかと思う。以下，今後の課題や展望について触れておく。

まず基本語彙ないし頻度との関連で，今後独和辞典や単語集において考慮すべきだと思われる点を列挙しておく。

- 高頻度だが辞書に挙がっていない語がある（例：Investor）。
- 辞書に挙がってはいるものの，頻度に照らして重要度ランクをもっと高く設定すべきだと考えられる語がある（例：E-Mail）。
- 一方で，あまり重要でない語が重要語になっている場合がある（例：beißen）。
- 見出し語にする語形について検討の余地がある場合がある（例：Finanz /

Finanzen)。

- 語義の頻度調査の必要性がある（例：Fischer)。
- 語形の頻度調査の必要性がある（例：weiß < wissen, weiß)。
- コロケーションへの注意喚起の必要性がある（例：Wiedersehen)。

最後に基本語彙の規模に言及しておきたい。この点について，当初は明確な見通しを持たずに単語の選定を進めてきた。語彙研究では，テクストを辞書なしで理解するには一般に90％以上の単語の理解が必要であるとされる。今回作成した最終リスト（5000語）のテクストカバー率は概ね80～90％程度であった。つまり，テクストの十分な理解には5000語だけでは不十分である可能性がある[15]。言うまでもなくテクストの正確な理解のためにはジャンル特有の語の理解も必要であるが，「特殊でない」語の集合を基本語彙であるとすると，その規模はどの程度のものなのであろうか。Ickler (1984: 21) によると，テクストの語が特殊でないものから特殊なものに変わり始めるのは15000語辺りからという見積もりもある。Duden (2013: 134) によると，ドイツ語母語話者の能動的（aktiv）な語彙は12000～16000語程度とのことであるので，それを踏まえると，この15000という数字はあながち的外れなものでないのかも知れない。とは言え，5000語という規模が90％近いカバー率を持つのであれば，まずは中級者の目標としてこの数字を設定してもよいであろう。ただし，我々ドイツ語教員にとっては，基本語彙の選定は出発点に過ぎず，これをもとに，造語の問題，文法の問題，意味の問題など，考えるべき課題は多い。

参考文献

千野栄一 (1986):『外国語上達法』岩波書店.

Duden (2013): *Die deutsche Rechtschreibung.* 26. Aufl. Mannheim: Dudenverlag.

Ickler, Theodor (1984): *Deutsch als Fremdsprache. Eine Einführung in das Studium.* Tübingen: Niemeyer.

Jones, Randall L./Tschirner, Erwin (2006): *A Frequency Dictionary of German.* London: Routledge.

Nation, I. S. P. (2001): *Learning Vocabulary in Another Language.* Cambridge:

[15] もっともドイツ語は複合語が多いため，単純な語のカバー率だけでは測れない部分もある。この点については今後さらに検証する必要がある。

Cambridge University Press.
大薗正彦 (2009):「コーパスとドイツ語教育——日本人のための「自然なドイツ語」の提供を目指して」田中愼 (編):『コーパスをめぐって——心理・知覚表現の分析』(日本独文学会研究叢書67), 41-56.
大薗正彦 (2014a):「基本語彙と頻度——実践と課題」恒川元行／大薗正彦 (編):『コーパス利用に基づくドイツ語研究——幅広いデータ収集と頻度から見直す』(日本独文学会研究叢書98), 49-64.
大薗正彦 (2014b):「ドイツ語基本語彙リストの比較」『ドイツ文学論集』(日本独文学会中国四国支部) 47, 47-61.
Tono, Yukio et al. (2013): *A Frequency Dictionary of Japanese.* London: Routledge.
Tschirner, Erwin (2005): 'Korpora, Häufigkeiten, Wortschatzerwerb'. In: Heine, Antje u.a. (Hg.): *Deutsch als Fremdsprache.* München: Iudicium, 133-149.
Tschirner, Erwin (2008): 'Das professionelle Wortschatzminimum im Deutschen als Fremdsprache'. *Deutsch als Fremdsprache* 4/2008, 195-208.
在間進 (2012):「頻度に基づく「基本語彙」リスト作成の問題点と展望」岡村三郎ほか (編):『ドイツ語基本語彙——辞書学的, 外国語教授法的な観点から』(日本独文学会研究叢書88), 3-12.